

第4回 ・私たちのひろば 記録

2022年11月13日（日） 14:00～15:34

司会：米本裕見子(幹事)

記録：廣島規子(会計役員)

参加数：委員・役員含め 19名 (2 サテライト 10名含む)

1. 開会挨拶 米本

2. 祈り 廣島

3. 自己紹介タイム

- ・オンラインでつながることのできる豊かさに感謝な反面、オンラインのできない方々を取り残さない。古くからのメンバーで盛り上がり、新しい方も巻き込んでいくことを大切にしたい。
- ・自分の中でまだ見えていないものを見つけたくて、この会に参加した。
- ・教会の内向きな働きで精一杯だったけれど、地方連合の当番教会になり、教会の外側についても考える良い機会になってきている。よそがどのようなことをしているのか？など気づきも与えられる。
- ・コロナ禍後、今月からようやく動き出した感じの教会生活です。
- ・天城山荘閉鎖は、連盟や女性連合の抱える問題の一つの現れ。第49回総会資料の各地方連合報告は、社会の課題であると思った。
- ・何らかの形でつながろうとしてくれる女性連合の働きかけが嬉しい。
- ・機構改革の大変な時期は、全国諸教会の女性会を回って、話し合いをしないといけないと思われている。
- ・コロナの時期に考えた究極のことはこれからも大事にして行きたい。皆さんと対話をし、聞き合いながら、変わっていききたい。

4. これからの女性連合検討チーム報告(「これからの女性連合の方向性案」「理念(たたき台)」の共有と説明) 参加者からの応答、意見

- ・国内伝道(地域共働プロジェクト)の一環として、会堂を取得できた。自分たちも何かの働きに参与していきたい。
- ・方向性案がなかなか心に入ってくるのが、それは誰も否定しないもの。具体案が具体化してこそ、話し合いができるのではないかと？世界祈禱週間献金の使い方について、議案説明会でも意見がいろいろあった。その中で、後継者育成に使われる予算の考え方は、今後の方向性案の一つといえるのではないかと？
- ・持続可能な女性連合を考える時に、財政と切り離しては考えられない。
- ・女性連合の働きのすべては、世界伝道に繋がっている。
- ・事務所体制があつてこそ、女性連合の働きができていないのではないかと。
- ・調査育成費-小羊大会費の額が大きいのは、連盟が費用を出してくれないからか？連盟が小羊の育成についてどう考えているのか心配。→ 議案を考えた時には、連盟の方針がまだ決まっていなかった。今月、全国小羊会の今後について、連盟常任理事と女性連合役員会で協議が行われる予定。
- ・全国女性会の中で、小羊会活動ができているところが全体の1/4くらいしかない。小羊会や小羊大会の持ち方についても、いろんなタイプを考えつつ、続けて行けるように考えたい。全国で一か所に集まるのは難しいが、地方連合の中では集まりやすいなども含めて考えたい。オンライン集会だけでは、子どものニーズが満たされない。
- ・大人4-5人で守る礼拝。牧師も子どももいない状況。さびしい。
- ・世界祈禱週間は女性連合の大切なテーマ。ロティームーンは働きの原点。だけれども、現在では国外伝道は海外に出かけていくだけではなくなくなった。国内でも国外伝道の必要性がある。
- ・世界祈禱週間献金のために、1年を通じて月ごとに教会の取り組みとしてリーストコイン献金をしている。

5. これからのスケジュールのご案内(11/12「私たちのひろば」報告と同様)

祈り 米本